

CS こひつじ科礼拝式次第

2020年10月4日 午前9時30分

2020年度年間テーマ：「神は今も語っておられる。御言葉の恵みに生きよう。」

テーマ曲：ワワワいっしょに（92番）

暗唱聖句：「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。」
ヨハネによる福音書1章18節

8、聖なるかな（こどもさんびかをお用いください）

おいのり 礼拝に招かれたことを感謝しましょう

せいしよ ルカによる福音書13章1～5節

ちょうどそのとき、何人かの人に来て、ピラトがガリラヤ人の血を彼らのいけにえに混ぜたことをイエスに告げた。イエスはお答えになった。「そのガリラヤ人たちがそのような災難に遭ったのは、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い者だったからだと思うのか。決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。また、シロアムの塔が倒れて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいたほかのどの人々よりも、罪深い者だったと思うのか。決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。」

おはなし 「神さまの怒り、私を通り過ぎ、イエスさまに」 若月道子先生

この頃は、災害が多くなりました。近いところでは、九州の水害、昨年では、台風19号の災害があります。その時は、私の勤めていた川越キングスガーデンが浸水しました。テレビに泥水の中に赤い屋根だけが見える映像が流れました。隣りのケアハウスの一階も床上浸水になりました。私の父は、ケアハウスの一階に住んでいたため、ベッドや家具、衣類は、泥だらけで、臭くて使い物になりませんでした。幸い命は、守られ別の施設に移りました。

さて、この災害は、ここに住んでいた人々が罪が深かったから起こったのでしょうか？

そうではありませんね。いつでもどこでも、誰にでも起こりうることです。

聖書は、誰もが受けなければならない罰があると教えています。全ての人は生まれながらにして「罪」を持っていて、全ての人は、この「罪」のために、神さまの恐ろしい「罰」を受けなければならない、と教えています。「そんな恐ろしい罪は犯してないから、私には関係ない」と思うかもしれないけど、実は、みんな大人も子どもも赤ちゃんも、罪を持って生まれてきているから、神さまの怒りを受けなければならないのです。自分の罪を認めて、神さまの前に「ごめんなさい」といわないといけないんです。

神さまの恐ろしい罰ってどんなでしょう？ それは、「永遠のくるしみ」という恐ろしい罰だと聖書は言っています。「永遠の苦しき」終わりのない苦しきは、辛いですね。

でも、神さまは自分の罪を認めて「許してください」と言って悔い改めたら、今度はなんと、「永遠の命」をくださるんです。 そんなに簡単に？ いやいや簡単じゃないんですよ、 本当は。

それは、イエス様のおかげなんです。イエス様が私たちの受けなければならない神さまの怒りと罰を全部十字架で受けて死んで、三日目によみがえって下さったからなんです。

この十字架と復活のイエス様を信じることで、永遠の命をいただけるんです。

それは、イエス様が私たちが愛して下さって、身代わりに十字架にかかって下さって、復活して下さって私たちが罪から解放して下さったからです。イエス様に感謝しよう。

* 小さなお子さまには、話の内容等をわかりやすく、年齢に合わせて噛み砕いてお話くださいますようお願い致します。

(けんきん) 再開後にまとめておささげください

59、イエス様がいちばん (こどもさんびかをお用ください)